

# マカジキ 北太平洋

## Striped Marlin, *Tetrapturus audax*



**利用・用途**

刺身、寿司、切り身（ステーキ）

**管理・関係機関**

中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）  
北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会（ISC）

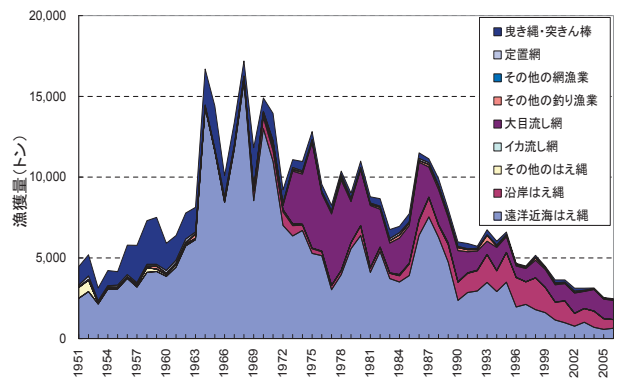
**漁業の特徴**

本資源のほとんどがはえ縄で、一部は突きん棒、流し網、あるいは曳き縄で漁獲される。我が国の本資源の漁獲の大部分はまぐろ類を対象とした操業の混獲で漁獲され、本種が主対象の操業は房総沖、釧路沖、南西諸島等ではえ縄、突きん棒、流し網等で季節的に小規模に行なわれる。

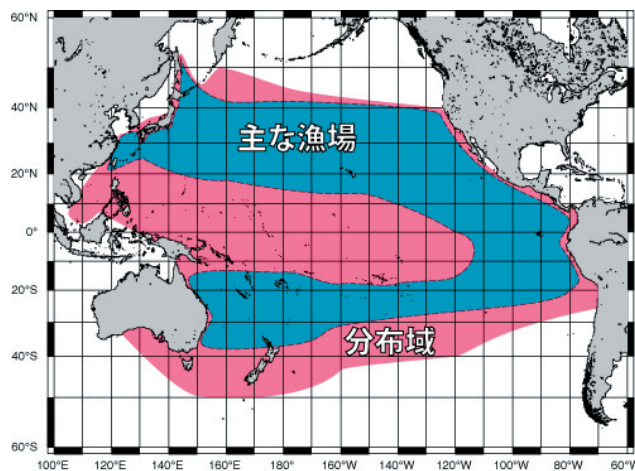
**最近一年間の動き**

2007年にISCが行った資源評価の結果、本資源の水準は低位にあると考えられたため、本年度から本資源の資源回復方策の検討が開始された。

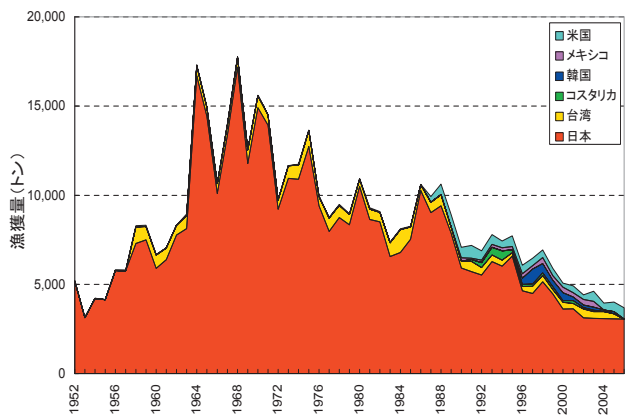
- 生物学的特性**
- 寿命：10歳
  - 成熟開始年齢：3～4歳
  - 産卵期・産卵場：4～6月、北緯20°前後の海域
  - 索餌期・索餌場：調査中
  - 食性：調査中
  - 捕食者：調査中



北太平洋（赤道以北）の我が国の漁業種別漁獲量



太平洋におけるマカジキの分布域（桃色）と主要漁獲域（青色）



北太平洋の国別漁獲量（ISC集計分、トン）

### 漁業資源の動向

我が国の北太平洋のマカジキの漁獲量は、1970年代に1万トンを超えたが、近年は3～4千トンに留まっている。ISCが集計した北太平洋におけるマカジキの漁獲量は1960年代前半までは1万トン以下であったが、その後急激に上昇し1万5千トン以上に達した。漁獲量は、1970年代中旬以降減少を続け、2001年以降は5000トン以下にまで落ち込んでいる。

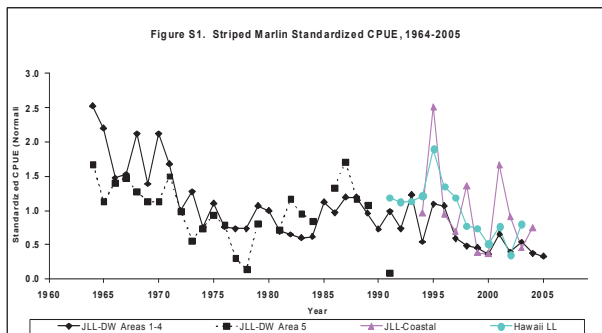
### 資源状態

日本の遠洋近海はえ縄の資源量指数は、1970年代初頭に急激な減少をしている。これは、東部太平洋で1960年代を中心にマカジキを主対象としたはえ縄漁業が存在し、それが1970年代初頭にメバチ・キハダを対象とした操業に切り替わった効果を十分に標準化出来なかった影響があり、実際の資源量の減少を過大評価している可能性が有る。

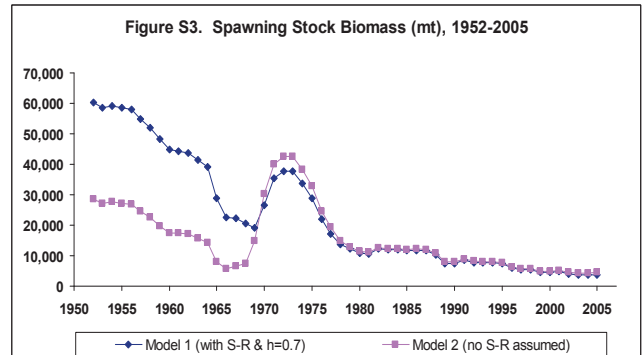
これに対して、1990年代中旬から2000年代の資源量指数の減少は、日本の遠洋近海はえ縄、沿岸はえ縄及びハワイのはえ縄の3つの資源量指数で共通に認められ、この時期に資源量が大きく減少した事を示しているものと考えられる。

資源量指数を使用して、資源解析を行った。資源解析には、①親子関係のある程度認める (steepness = 0.7) 場合と②加入群の量は環境要因によって決められ、親子関係が無い場合の2つの過程で行った。いずれの場合も、北太平洋マカジキ資源豊度は1970年代初頭に一度回復したものの、全般として1950年代から大きく減少していたことを示している(図)。

資源解析結果は信頼性が低いものの、推定された2005年の産卵親魚尾数は、1980年代の半分以下に落ちており、本資源の資源水準は近年悪化していると考えられる。



資源解析に用いた資源量指数 (Piner et al., 2007)。黒実線：日本の遠洋近海はえ縄 (北太平洋中西部)、黒点線：日本の遠洋近海はえ縄 (東部太平洋)、桃色：日本の沿岸はえ縄、水色：ハワイのはえ縄。



統合モデルで推定した産卵親魚尾数の年変化 (Piner et al., 2007)。紺色は親子関係のある程度認めた場合 (steepness = 0.7)、桃色は親子関係を認めなかった場合を示す。

### 管理方策

ISCでは“本資源の漁獲死亡率を近年のレベル (2003年或いはそれ以前の水準) よりも減少させるべき”という勧告を行ったが、具体的な管理方策は今後検討される予定である。

### 資源評価まとめ

■資源水準は低位減少。

### 資源管理方策まとめ

■本資源の管理方策は特に設定されていない。

### マカジキ (北太平洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近5年間)	3,700 ~ 4,600 トン 平均 : 4,100 トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	3,050 ~ 3,100 トン 平均 : 3,100 トン